

高校教科書と大学教材内の パラグラフ・ライティングタスクの分析

仲川 浩世
(2017年10月4日受理)

Analysis of Paragraph Writing Tasks in Japanese High School English and
College English Writing Textbooks

Hiroyo Nakagawa

Abstract: Despite high school students receiving basic English instruction regarding the four key skills of listening, reading, speaking and writing, a large number of Japanese college students learning English as a foreign language continue to have difficulty in writing English paragraphs or essays. With this background, the purpose of this study is to analyze the features of paragraph writing tasks in six Japanese senior high school English textbooks and six English as a second/foreign language (ESL/EFL) college textbooks to clarify the differences between them. The textbooks were initially examined to see whether paragraph writing tasks were included. In addition, the tasks were analyzed with respect to the type of process writing skills, connectors, their cooperative aspects, and features such as topics and discourse patterns. The result demonstrated that both sets of textbooks included paragraph writing tasks. However, while tasks in Japanese senior high school textbooks focused on grammar-oriented activities, those in college writing textbooks varied from English composition at the sentence level to writing multiple paragraphs and academic essays. Therefore, the study suggests that it is crucial for Japanese college teachers to develop supplementary materials for underprepared students in writing programs to bridge the gap between high school and college English writing classes.

Key words: paragraph writing, tasks, English textbooks, college, high school
キーワード：パラグラフ・ライティング、タスク、英語教材、大学、高校

1. 研究の目的と背景

本研究の目的は、高校教科書と大学教材内のパラグラフ・ライティングに着目し、その特徴の違いを明らかにすることとする。そして、対象を日本人初級大学生、短期大学生に絞り、教材内のパラグラフ・ライティングタスクが、授業内で活用されるよう設定されているかを分析することである。

1990年代の和文英訳偏重に比べると、英語教育はコミュニケーション能力重視へと移り変わりつつある。それに伴って、自分の考えをまとめた分量で論理的に書くという、「パラグラフ・ライティング指導」が

導入されるようになった。しかし、大学生の英語力低下やライティングを苦手とする学習者の数は、依然として問題視されたままである。

ベネッセ教育総合研究所(2016)『中高の英語指導に関する実態調査2015』によれば、中高時代の「聞く」「読む」という技能に比べて、「話す」「書く」に対する指導は不足していると報告されている。

さらに、高校生の教科書使用について、「コミュニケーションI, II, III」と「英語表現I, II」によるライティング力の育成が期待されている。特に、ライティング、スピーキング、ディベートの要素を含む「英語表現I, II」の目標は、「事実や意見などを多角的に考

察し、論理展開、表現の方法を工夫して伝える能力を養う」と掲げられている。具体的に、2015年度では、日本の高校生の7割が「英語表現Ⅰ」を、約5割が、「英語表現Ⅱ」を履修していると報告されている。しかしながら、現状はこの目標が達成されているとは言い難い(大井, 2015)。

また、保田・大井・板津(2014)は、日本人大学生の入学前後のライティング実態調査から、高校の文法やリーディング中心の受信型指導に対して、大学の「まとまった考えを自分の言葉で書く」という、発信型指導との相違点を指摘している。そのため、回答者の約7割が、ライティング力に対して準備不足であったとの見解を示している。

その上、大学のライティング授業では、英作文のようなセンテンスレベルではなく、パラグラフ単位で、論理的に自分の意見を述べる指導は、まだ十分確立されていない(Nakanishi, 2006; 馬場, 2010)。この指導法の違いが、大学生のライティングに対する不安感の要因の一つになっていると推測される。

指導法以外にも、日本人学習者の英語学習意欲の減退の外的要因として、教材が一因であると考えられる(Kikuchi & Sakai, 2009)。そこで、本研究では、高校教科書英語表現Ⅰ、Ⅱと大学教材内のパラグラフ・ライティングタスクの分析に焦点を当て、その質の違いを明らかにする。そして、教材内のタスクに不足している点を探り、今後工夫が必要な点を示唆する。

2. 先行研究

2.1. パラグラフ・ライティング指導

センテンスレベルからの橋渡しのライティング指導として、パラグラフ構造を理解させる重要性が主張されてきた(Raimes, 1983; 橋内, 1995; 大井他, 2008; 大井, 2014)。本研究において、パラグラフを、「英語の文章構成における明確な単位」(橋内, 1995, p. 10)と、定義づける。

また、大学の英語授業における、パラグラフ・ライティング指導に関する実践研究も報告されつつある。特に、初級レベルを対象とした研究は、盛んになりつつある(山西, 2011; Iwata, 2017)。

しかし、日本語と英語の構造の違いを把握していない学習者や、英語のライティングに馴染のない中高生に、パラグラフの雛型だけを押し付けるのは、必ずしも効果的であるとは言い難い。自分の意見を自由に表現する前に、枠組みに囚われてしまうかもしれないからである。したがって、教員は学習者のレベルに見合った工夫をする必要があると言えよう。

2.2. 教材内のタスク分析

使用教材の工夫に関しては、カリキュラム・シラバス作成同様、綿密に考慮されなければならない。本研究では、教材分析を「専門的な知見を活用し、教材の内部構造を明らかにすること」(山森, 2009, p.189)と定義づける。また、Tomlinson & Masuhara (2011)は、教材の使用に関する、学習の効果を調査することの意義を主張している。

教材分析に関して、深澤他(2016)は、教科書研究の対象には、(1)異文化理解促進などの題材分析(Yamanaka, 2006)、(2)語彙分析などの言語材料(中條他, 2011)、言語活動の考察(国分, 2016)、(3)高校コミュニケーション英語教科書課末タスクの分析(深澤他, 2016)などがあると言及している。

しかし、ライティングに特化した、教材分析の先行研究はあまり見られず、Kobayakawa (2011)による、高等教科書(旧学習指導要領により検定・採択)のタスクの量的分析のみが代表的なものとして挙げられる。Kobayakawa (2011)は、教科書内のタスクを4つの上位項目(1)制限作文、(2)誘導作文、(3)和文英訳、(4)自由英作文と設定し、さらに下位項目を14種類に分類した。だが、パラグラフ・ライティングのみに特化した分析を行ってはいない。

そのため、本研究では高校と大学教材内のパラグラフ・ライティングタスクのみに焦点を当て、その特徴の違いを探る。そして、大学入学時のライティング学習意欲の減退を防ぐために、教員と学習者がどのように取り組んでいくべきかを考察する。

3. 研究課題

研究の背景と先行研究により、日本人初級レベルの大学生にとって、パラグラフ・ライティング指導の重要性が明らかになった。そこで、本研究では次の2つの研究課題を設定する。

- 1) 高校と大学のライティング教材のパラグラフ・ライティングタスクには、どのような違いがあるか。
- 2) タスク分析結果から、今後の大学ライティング活動において、教員が考慮すべき点とは何か。

4. 研究方法

4.1 高校と大学ライティングの教材分析

研究手法として、パラグラフ・ライティングタスクの比較分析を実施した。そのために、現行の高校英語表現教科書Ⅰ、Ⅱと日本の出版社、およびESLの大学ライティング教材の4種類におけるパラグラフ・ライ

ティングの有無を探った。

4.2 分析対象教材

本研究で使用した教材は、表1の12冊である。現行の高校英語表現 I、II の教科書から、2016年2月現在、上位10位以内に採択された6冊と、2016年当時、関西圏の外国語大学・短期大学で使用されていた ESL 用教材3冊、さらに国内の出版社で、売れ行きがよかった3冊を選び出した。

表1. 分析教材

教材	出版社
<i>Vision Quest English Expression I, II Standard</i>	啓林館
<i>BIG DIPPER English Expression I, II</i>	数研出版
<i>My Way English Expression I, II</i>	三省堂
<i>Ready to Write 2</i>	Longman
<i>Great Paragraphs 2</i>	Cengage
<i>Great Writing 4</i>	Cengage
<i>Primary Course on Paragraph Writing</i>	成美堂
<i>Writing Frontiers</i>	金星堂
<i>Point by Point</i>	南雲堂

4.3 パラグラフ・ライティングタスクの分析観点

パラグラフ・ライティングタスクの分析観点は、a) パラグラフの有無、b) ライティングの過程（プロセス）の導入、c) つなぎ言葉の提示である。

大井他（2008）は構造だけではなく、プロセスと英作文から、パラグラフ・ライティングへの橋渡しとなる、つなぎ言葉の役割を述べている。つなぎ言葉の例としては、次のようなものが挙げられる。

- a) 追加：and, moreover, also, additionally;
- b) 逆接：but, however, yet, on the other hand;
- c) 因果関係：because, as a result;
- d) 時間：first, finally, then;
- e) その他：after all, now, well

さらに、コミュニケーション能力育成の要素を扱っているかを調べるために、d) 協同学習に従事できるタスクの有無も分析の観点に含めた。協同学習の利点とは、学習者同士が、お互い協力し学び合い、より効果的に教室内のインタラクションを促進させることである（江利川，2012）。しかし、日本人に特化した、ライティング活動に関する協同学習の実践研究は、それほど報告されていない（阿部・山西，2013）。そこで、本研究のタスク分析の観点に含めることとした。

5. 結果

5.1 パラグラフ・ライティングタスクの分析結果

表2は教材内のタスクの分析結果を示したものである。順不動で、アルファベットの A～L まで表記する。高校教科書英語表現 I の教科書には、3冊ともパラグラフ・タスクが存在しなかったが、英語表現 II の教科書には、全て存在した。

表2. パラグラフ・ライティングタスクの分析結果

	パラグラフ	プロセス	つなぎ言葉	協同学習
高校				
A	×	○	○	×
D	○	○	○	×
B	×	○	○	×
E	○	○	○	○
C	×	×	×	×
F	○	○	○	○
大学				
G	○	○	○	○
H	○	×	○	○
I	○	○	○	○
J	○	○	○	○
K	○	○	○	○
L	×	×	×	×

Note: ○は該当タスクが存在する

協同学習という点においては、高校教科書内ではペア・ワークやグループ内の発表というタスクが見られたが、既存のパラグラフ・ライティングに関連したものは、少数であり、教員による十分な支援がなければ難しいと考えられた。

大学教材を調べてみると、トピック・センテンス、支持文、結論文を徐々に書かせてプロセス・ライティングの技法を習得させるものが大半であった。しかし、大学教材は教員の裁量によって選択が任されているため、初・中級レベルの学習者が難易度の高い教材を用いた授業を受講した場合は、学習意欲を減退してしまうという恐れもあった。

特に ESL 教材 I は、エッセイに特化し、例題の長文も数ページに及んでいた。そのため、高校時代にパラグラフの基礎知識を学習していなければ、非常に難易度が高い教材であると考えられた。他方で、日本の出版社のテキスト L は、英作文問題の羅列になっていた。

5.2 パラグラフ・ライティングタスクの質的分析

パラグラフ・ライティングタスクを、その教材が学習者に効果的であるかという視点から、評価した。主に着目したのは、1) トピックの内容、2) 談話文法、3) パラグラフを作成するプロセス、4) 協同学習である。

なお、パラグラフのタスクが含まれていない教材は

省き、高校教科書「英語表現Ⅰ」のA, B, Cと大学教材Ⅰを対象から外して、8冊のみを分析した。

表3は高校と大学の教材内におけるパラグラフ・ライティングタスクの特徴を示したものである。表4, 5, 6, は高校教科書3冊、表7, 8, 9, 10は大学ESL/EFL教材各2冊内のタスク例である。

表3. パラグラフ・ライティングタスクの質的分析結果

	トピック	談話文法	プロセス	協同学習
高校	文化・日常生活中心	文脈なしの文法問題	段階を経て書かせる問題	ペア・ワーク
大学	パラグラフ・ライティング	つなぎ語・句読点中心	多様なパラグラフ	ペアで評価

表4. パラグラフ・ライティングタスクの例 (高校教科書英語表現Ⅱ その1)

次のパラグラフの () ①～③に入る適切な語句を、下のA.～E.の中から選びなさい。

Many Americans enjoy sports in various ways. (①), they love watching games or matches on television. There are a lot of sports programs on TV, especially on weekends. They also go to stadiums and watch sports live. (②), they enjoy playing sports (③) basketball, soccer, and softball, and volleyball. A study shows that more than half of American high school students belong to a sports team.

A. such as B. for example C. instead D. furthermore E. according to

① () ② () ③ ()

表5. パラグラフ・ライティングタスクの例 (高校教科書英語表現Ⅱ その2)

Practice

次のパラグラフを読んで、主題文と結論文にふさわしいものを(a)～(c)から1つずつ選び、下線部に入れてみよう。

__ (1) __. First, I discovered the importance of never giving up. Second, I learned to believe in myself, even if I lost a game. __ (2) __.

(a) I can use these two valuable lessons for the rest of my life.

(b) I'm a member of a tennis club, and I have two reasons why I chose this club.

表6. パラグラフ・ライティングタスクの例 (高校教科書英語表現Ⅱ その3)

Model Sentences

I just watched the Korean film *Happy Swan*. I rented the DVD last week, but I've been so busy that I couldn't watch it until now. The drama describes spiritual interactions among three men. Although it isn't famous at all, it's wonderful. I dare say I've made a lucky find. It's good enough to watch many times.

Writing

You manage a blog site. Write a paragraph which recommends a movie or a book to your readers. (あなたはブログを運営しています。ブログの読者に映画や本を勧める文章を書いてみよう。)

Ex.) I recommend Japanese History in Comics. I've already read several volumes of it. Although this series was written for kids, it is very informative for high school students and even for adults. I enjoy these books and I am learning a great deal about Japanese history. These books are so easy that you can finish one volume in a couple of hours. They are perfect for weekend reading.

表7. パラグラフ・ライティングタスクの例 (大学 ESL 教材 その1)

Writing Topic Sentences

Read each paragraph. Then write a good topic sentence for it. Be sure to end each topic sentence with correct punctuation.

Young people tend to buy them because they want to look “cool” to their friends. It is much easier for a young person to impress other people with a fast sports car than with your father’s minivan. Wealthy people, however, enjoy sports carts because they want to show others that they have status in their community. I have never seen a doctor or a lawyer driving around in an old station wagon. Finally, sports cars appeal to adventurers. Adventurers are people who like to take risks on the road. Whatever the reasons, I think sports cars are here to stay.

表8. パラグラフ・ライティングタスクの例 (大学 ESL 教材 その2)

Revising

A. Compare your summary with some of your classmates’ summaries. As you are revising, think about these questions.

1. Did you include too much information?
2. Did you miss an important idea?
3. Did you use time order to organize the sentences in your summary?

B. Check for errors in grammar, spelling, and punctuation. Copy your revised summary on a separate piece of paper.

表9. パラグラフ・ライティングタスクの例 (大学 EFL 教材 その1)

下の文は外国に行く際の出発までの手続きを説明したものです。順番を並べ替えて意味の通る文章にしてください。

There are many stages you have to go through to travel to a foreign country:

1. After that, you will pass through immigration and show your passport.
2. Next, all of your belongings will be checked at the entrance to the boarding area.
3. Then you have to check whether the country you are going to requires a visa or not. If required, you will have to apply for it at the embassy of that particular country.
4. Before anything, you have to get a passport by applying for it with proper documents to prove your identity.
5. Finally, you have to wait in the waiting area near the gate till the announcement of your flight’s boarding.
6. On the day of your departure, you have to get your boarding pass and check your luggage at the airport.

() → () → () → () → () → ()

表10. パラグラフ・ライティングタスクの例 (大学 EFL 教材 その2)

<p>Pre-writing Activity</p> <p>Step 1 「定義 (definition)」のパラグラフについて学習しましょう。</p> <p>*ポイント解説*</p> <p>「定義」のパラグラフでは、まず導入で、「～は…と定義される」「～は…によって説明される」といった形式で事物や言葉の定義づけをします。続く本文では、定義した内容について、例を示したり、類似するものと置きかえたり、違いを指摘するなどの方法で具体的に説明をします。結びでは、定義をもう一度繰り返すようにします。</p> <p>For example…</p> <p>I am going to write about the meaning of love. What is love? It can be defined as wanting to be loved. When people love someone else, they usually want to know how much that person loves them. This is because they try to win his / her heart. To put it simply, people want their favorite person to love them as much as they do. To be precise, people want to be loved more than they love. What I mean by “love” is wanting to be loved.</p> <p>[解説] 定義のパラグラフでよく使用される語句は、太字にしています。</p>
--

研究課題1)の高校と大学のライティング教材のパラグラフ・ライティングの違いは、以下のようにまとめられる。高校教材全体は、文化や日常生活に関する短いパラグラフや、コミュニケーション上で使用される談話文法の要素を含んでいた。前半にセンテンスレベルの英文、ダイアログ、後半に短めのパラグラフの練習を、要約やディベートを通じて習得できるように、設定している教科書もあれば、協同学習の指示文として、ペア・ワークを配置しているものもあった。

このようなタスクが、大学の教材への橋渡しの役割をするためには、全体を通じて、論理的な思考を進展させ、その後、自分の考えをパラグラフ構造で表現する実践問題が必要であろう。そこで大学教材を振り返ってみると、トピック・センテンス、支持文、結論文などを徐々に書かせるものが、大半であった。また、エッセイ・ライティングに特化した教材では、パラグラフ構造や、プロセス・ライティング、つなぎ言葉などの基礎編と、論理展開、談話モードを示して、学習者にアカデミック・ライティングの知識を習得させる応用編とに区分することができた。

しかし、このような教材は、初・中級レベルの学習者にとっては少々難易度が高いとも言えよう。また、日本の出版社の教材には、日本語と英語の指示文によって、世界の多様な文化を理解し、ブレイン・ストーミングや、つなぎ言葉、パラグラフ構造、最終的にエッセイへと自然にプロセス・ライティングに取り組むように作成されている教材もあった。

さらに、「～に対して書きなさい」「～という文章にしてください」と読み手を意識した指示文もみられた。また、その後のペア・ワーク、グループワークによ

て、教室内のライティング活動がより学習者主体の展開に作成されていた。そのため、教員にとっても、工夫し易い教材であるという印象を受けた。

つぎに、日本の出版社が発行した EFL 教材と ESL 教材を比較してみた。高校教科書も EFL 教材も、トピックを中心とした章立てとなっており、ライティングの技能と共に、文化的な知識をリーディングによって、増強できる構成となっていた。

それに対して、ESL 教材は、ライティングの技能の習得に特化し、トピック・センテンスや支持文を学習者に書かせる練習問題が多数存在した。このような教材を初級レベルの学習者が使用すると、ライティング学習に対して苦手意識が一層高まる恐れもあった。

とりわけ、大学のライティング教材は、膨大な選択肢があり、統一カリキュラムを実施していない大学は、学習者のレベルを把握していない状態で、教員に教材の選択が任されている。そのため、授業開始後、担当学習者の習熟度に見合った教材の改作や、工夫が必須となってくると考えられる。

6 まとめと考察

6.1 まとめ

本研究における教材分析の結果、高校教科書英語表現 I は、全て文法問題で占められていた。例を挙げれば、単語の並び替え問題である。

また、英語表現 II において、ライティングタスクの難易度にばらつきが見られた。もし、難しい教科書を高校で使用した場合、パラグラフの基礎的な概念の理解不足のまま、大学でアカデミック・ライティングを

学ばなければならないであろう。

すなわち、大学では、教員の裁量に教材の選択がゆだねられているため、授業内容の差に大幅な差がみられる。その結果、ライティングに対する苦手意識が高まることもある。よって、高校時代、どの程度パラグラフ・ライティングの基礎知識を蓄えているか、初級レベルの学習者のニーズを探りださなければならない。さらに、大学教員は、学習者の問題点を調査することで、「高校と大学のライティング活動の橋渡し」を効果的に実施することができるかもしれない。

6.2 考察

高校教科書と大学教材のライティングタスクの質の違いについて言及した。しかしながら、教材をどのようにして活用するかという点については、まだ研究が不足している。さらに、日本人学習者のライティングの指導過程に、十分配慮がなされてはいない（木村，2012）。

そこで、研究課題2)の今後の大学ライティング活動を示唆するために、教員が考慮すべき事柄については、教員のフィードバックを中心とした側面から検討することとした。すなわち、「学習者のライティング活動を支援するためには、何がなされるべきか」という点において、議論は文法の誤り訂正の有無に集中しがちである。

木村（2012）は、ライティング指導のフィードバックについて、先行研究のレビューを行い、Goldstein（2004）が述べた、「ライティングのフィードバックとは教師と生徒の共同作業による過程である」という言葉を挙げている。すなわち、教師のフィードバックが学習者にとって、押しつけとはならず、有益なものにすることが重要であると提言しているのである。この主張は現在ライティングを指導している教員にとって、深く考慮しなければならない点であろう。

さらに、教員が学習者のライティングに対して、フィードバックや誤り訂正という形だけではなく、教室内で、助言者として役割を担うことも必要となってくる。このように、教員が授業内でライティング活動を支援するための指導法も工夫しなければならない。

また、ライティング活動を、定期的に学習者自身振り返るといった過程を促すことも、今後導入していくべきであろう。自分のライティング活動に積極的に取り組むことが、学習意欲の減退を防ぐ要因となる。

したがって、教員が率先して、

- 1) 明示的なライティング支援
- 2) 学習活動へのフィードバック
- 3) 学習者への振り返り促進

の3点を導入することで、ライティングの授業がコミュニケーションタイプとなり、学習支援が徐々に発展すると考えられる。

本研究で行った教材分析から、今後のライティング活動のために、教員が学習者と共に教材に取り組むという方向性が明らかになった。これからは、学習者のライティング活動の動機づけ向上となる手がかりを探求していきたい。

【引用文献】

- Goldstein, Lynn M. (2004). Questions and answers about teacher written commentary and student revision: teachers and students working together. *Journal of Second Language Writing*, 13, 63-80.
- Iwata, A. (2017). Developing contextually sensitive free writing pedagogy: Transitioning from a product approach to a process approach. *The Language Teacher*, 41, 11-16.
- Kikuchi, K., & Sakai, H. (2009). Japanese learners' demotivation to study English: A survey study. *JALT Journal*, 31, 183-204.
- Kobayakawa, M. (2011). Analyzing writing tasks in Japanese high school English textbooks: English I, II, and Writing. *JALT Journal*, 33, 27-48.
- Nakanishi, C. (2006). *A teaching approach to Japanese college students' EFL writing*. Keio University Press.
- Raimes, A. (1983). *Techniques in teaching writing*. Oxford University Press.
- Tomlinson, B., & Masuhara, H. (Eds.) (2011). *Research for materials development in language learning: Evidence for best practice*. Continuum International Publishing Group.
- Yamanaka, N. (2006). An evaluation of English textbooks in Japan from the viewpoint of nations in the inner, outer, and expanding circles. *JALT Journal*, 28, 57-76.
- 阿部真・山西博之（2013）「大学英語教育における協働的ライティング学習の可能性：グラウンデッド・セオリー・アプローチに基づいた分析の試み」*Language Education & Technology*, 50, 93-117.
- 江利川春雄（2012）『協同学習を取り入れた英語授業のすすめ』大修館書店。
- 大井恭子編著・田畑光義・松井孝志著（2008）『パラグラフ・ライティング指導入門—中高での効果的なライティング指導のために』大修館書店。

- 大井恭子 (2014) 「ライティングの研究動向」全国英語教育学会 (編) 『英語教育学の今—理論と実践の統合—』, 124-127.
- 大井恭子 (2015) 「4技能試験時代のライティングに必要な指導と評価とは」『英語教育』, 64, 10-12. 大修館書店.
- 木村友保 (2012) 「時事英語によるライティング指導の中のフィードバックの意義について: 英語教育の現職教育を中心に」 *MEDIA, ENGLISH AND COMMUNICATION*, 2, 201-216.
- 国分裕昭 (2016) 「高等学校英語科の教科書における言語活動の分類と考察」『中国地区英語教育学会研究紀要』第46号, 21-30.
- 中條清美・西垣知佳子・山保太力・天野孝太郎 (2011) 「英語初級者向けコーパスデータとしての教科書テキストの適性に関する研究」『日本大学生産工学部研究報告B』第44巻, 13-23.
- 橋内武 (1995) 『パラグラフ・ライティング入門』 研究社出版.
- 馬場千秋 (2010) 「ライティング指導でもとめられているもの」木村博是・木村友保・氏木道人編, 『リーディングとライティングの理論と実践: 英語を主体的に「読む」・「書く」』, 119-134. 大修館書店.
- 深澤清治・五井千穂・吉田来依可・久万瑞帆・有馬史織・江腕 (2016) 「高校コミュニケーション英語教科書課末タスクの分析: 本文テキストをもとにした技能統合を促す設問に焦点を当てて」, 『学校教育実践学研究』第22号, 163-170.
- ベネッセ教育総合研究所 (2016) 『中高の英語指導に関する実態調査2015』 Retrieved from <http://berd.benesse.jp/global/research/detail.php?id=4776>
- 保田幸子・大井恭子・板津木綿子 (2014) 「日本の高等教育における英語ライティング指導の実態調査」 *JABAET Journal*, 18, 55-78.
- 山西博之 (2011) 「プロセス・アプローチによるパラグラフ・ライティング指導と短大1年生のライティングの発達」『JACET 関西支部ライティング指導研究会紀要』第9号, 1-13.
- 山森直人 (2009) 「教材の開発」三浦省五・深澤清治編著, 『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』, 188-198. ミネルヴァ書房.

(主任指導教員 深澤清治)